

《費用対効果分析説明資料》

事業名	大間港改修(地方) 泊地(-5.5m)、防波堤(西)(改良)	地区名等	根田内地区
-----	-----------------------------------	------	-------

【費用対効果の算定内容】

『港湾投資の評価に関する解説書2004』に基づき算定した。

1. 事業全体の投資効率性

1-1 総費用

- ・フェリーふ頭ターミナル整備に関する全ての施設群の費用とし、消費税を除き現在(H.20年)価値化した。
- ・費用の生じる時期は、最初の施設に着手したS.55年とした。

1-2 需要の推計

(With時) 事業を実施した場合

- ・目標輸送量は、最近5年平均実績(H.14~H.18)と同値とした。
- ・目標達成年は、事業完了の翌年、H.35年とした。 [年間旅客109千人/バス291台/乗用車29千台]

(With out時) 事業を実施しなかった場合

- ・輸送量は、大型フェリー転換前の5年平均実績(S.58~S.62)とした。
[年間旅客85千人/バス279台/乗用車18千台]

1-3 便益の算定

- ・便益は、大間・函館間の移動コスト削減便益とし、With時とWith out時の移動コストの差分とする。
- ・With時の交通手段は、大型フェリーとする。
- ・With out時の交通手段は、旧型小型フェリー、青森函館フェリー、JRの組み合わせとする。
- ・便益計算期間は、当該ふ頭が概成したS.61年から50年間とし、H.48年までとした。

1-4 費用対効果分析の結果

	単純合計	現在価値化後
基準年		平成20年
総費用(消費税除く)	3,248百万円	6,175百万円
移動コスト削減便益	14,918百万円	10,618百万円

$$B/C = 10,618 \text{ 百万円} / 6,175 \text{ 百万円} = 1.72$$

2. 残事業の投資効率性

再々評価時点(H.20)まで発生したコストや便益を考慮せず、残事業の費用対効果分析を行なった結果は次のとおりである。

	単純合計	現在価値化後
基準年		平成20年
残事業総費用	939百万円	699百万円
移動コスト削減便益	4,329百万円	2,254百万円

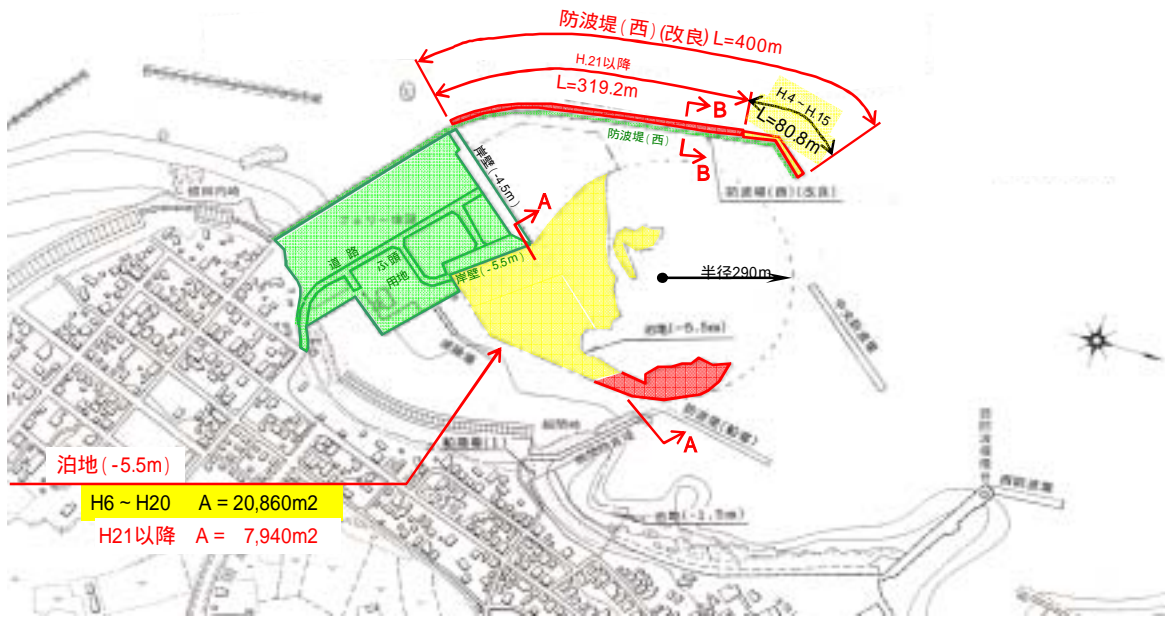
$$B/C = 2,254 \text{ 百万円} / 699 \text{ 百万円} = 3.22$$

位置図

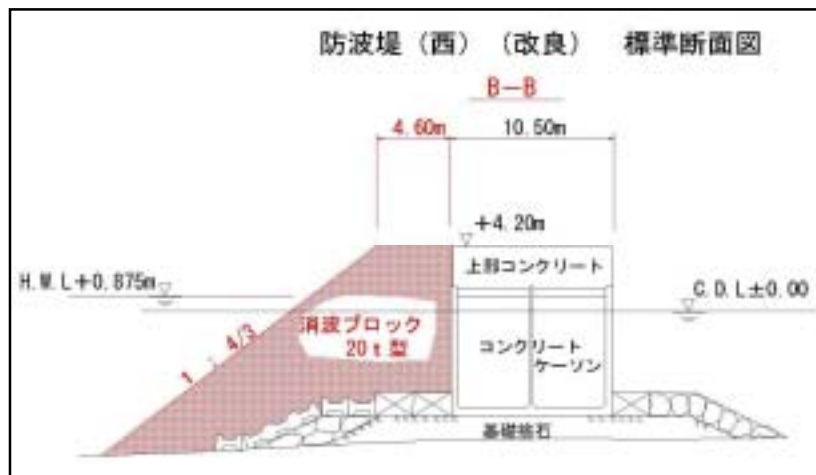
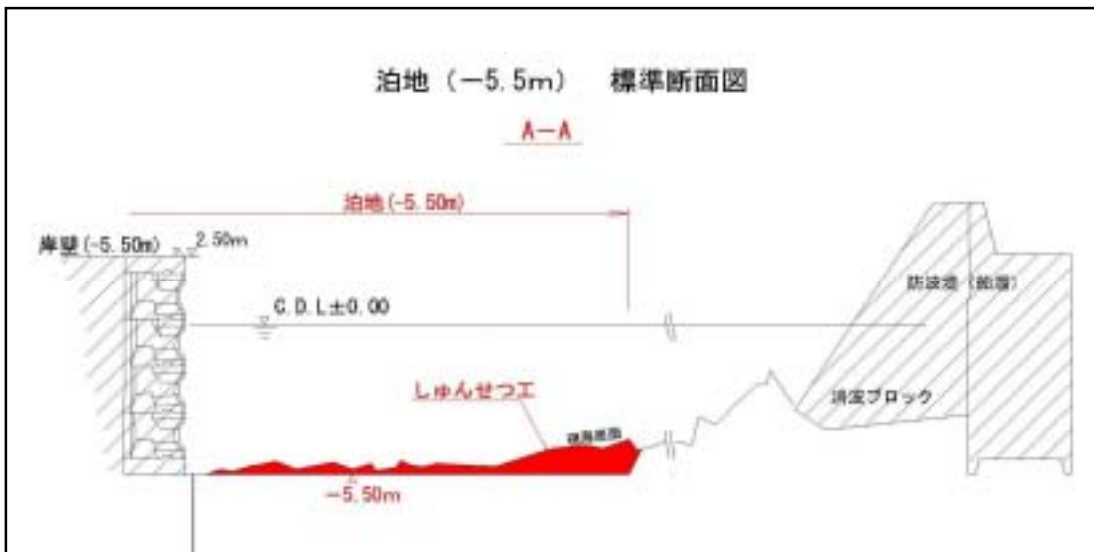


平面図

大間港 根田内地区



凡例	計画 残事業	H.20年度まで	完了済み施設 (総費用へ算入) S.55~H.6年度施工済
		H.21年度以降計画	



大間港 根田内地区

防波堤(西)の越波状況写真



新大間学

- 8 -

津軽海峡に突き出した本州最北端の大間町。海点病院となる大間病院は「函館病院長案内」の向うに北海道が広がる地理上の特殊性は、町市には北半島唯一の総場職員会は「病名による民の生活や文化などにも深く影響している。

平日の朝、町中心部に近い大間フェリーターミナルで往復切符を買い、船に乗り込む高齢者の姿が目立つ。大間―函館航路で函館市内の病院に通う町民だ。夏の観光シーズン以外、船内の大半は顔見知り同士、おしゃべりに興じる人、じゅうたん敷きの船室で仮眠する人。思い思いに一時開ける窓の民間病院など、十分の航海を過ごす。

「横になれて楽」

同町には大間、風間浦

フェリー航路

海の向こうも生活圏



大間町民の命綱ともなっている大間―函館航路は一九六四(昭和三十九)年、日本初の外洋フェリーとして誕生した。事が直接船内に乗り込める。

エリーはトラック輸送の普及で全国に拡大し、同航路を運航した東日本フェリーが全国展開するに、大間町の支線も町民の暮らしが豊かになった。

冬期間は減便に加えて、不便をしいられる場合もあるが、数カ月一度函館に通航する女性などは「函館の病院では、船で来た患者には帰りの便に診察してくれる先生もいる。確かに通院は一日がかりで大変だが、一緒に買い物ができる楽しみもある。大間の人はフェリーですぐいぶん助かっている」と話す。

まだ薄暗さが残る朝に大間を出港した函館行きフェリー。船室では自然と世間話に花が咲く

「知事は『道知事』大間から東京に向かう場合も船は有利だ。陸路で喜森、三沢の両空港に行き、函館を港経由の方が時間を短縮できると。知事といえは道内言われた津軽海峡を挟み、本奥と道南地方は古

「函館の病院では、船で来た患者には帰りの便に診察してくれる先生もいる。確かに通院は一日がかりで大変だが、一緒に買い物ができる楽しみもある。大間の人はフェリーですぐいぶん助かっている」と話す。

「函館の病院では、船で来た患者には帰りの便に診察してくれる先生もいる。確かに通院は一日がかりで大変だが、一緒に買い物ができる楽しみもある。大間の人はフェリーですぐいぶん助かっている」と話す。

あは